

仙台市文化財調査報告書第88集

上野遺跡

市道十文字線関係調査略報

昭和61年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第88集

上野遺跡

市道十文字線関係調査略報

昭和 61 年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

序

平素、仙台市の文化財保護行政にご協力を賜わり、厚く感謝申し上げます。

上野遺跡は、仙台市の西方の郊外、河岸段丘上に位置する広大な遺跡で、昭和51年度に行われた発掘調査の結果、縄文時代中期の集落跡が良好に遺存していることが確認されておりました。

上野地区は、これまで市街化調整区域として開発の波からまぬがれておりましたが、近年、次第に住宅も増加し、生活道路の整備も必要となってまいりました。

今回の調査は、工事に先行して行われた道路部分のみの調査ではありますが、竪穴住居跡、石組炉などを検出し、縄文時代中期の大量の土器や石器などを出土し、当遺跡が縄文時代の集落の在り方や生活環境の在り方を解明する上で貴重な資料を包蔵していることが明らかになりました。

この報告は、略報であり、さらに整理作業を進め、その成果については詳細な報告書を作成する予定であります。

今後とも、仙台市の文化財行政にご叱責、ご指導を賜りますようお願いいたします。

1986年3月

仙台市教育委員会

教育長 藤井 黎

例　　言

1. 本書は、市道十文字線に係わる上野遺跡の、昭和58年度と昭和60年度の発掘調査略報である。
2. 本書の作成は、次のとおり分担して行なった。

本文執筆　　金森安孝：IV・VI

工藤哲司：I・II・V・VI・VII

千葉　仁：III

トレース：金森・工藤

遺物整理：金森・工藤・森　剛男・高橋明美・石山真理子・真中・松坂　浩・佐々木慎

一・木村勝彦・小野寺雄・浅理千賀

遺物写真：千葉・神尾紀以子

編集は担当職員が行なった。

3. 本書の記載における土色は「新版標準土色帳」（小山・佐原、1970）を使用した。
4. 本書に関係する出土遺物・作成図面類・写真類は一括して仙台市教育委員会が保管しており、昭和61年以降に正式報告書を作成する予定である。

目 次

序	
例言	
I. 調査要項	1
II. 調査に至る経過.....	1
III. 遺跡の立地と環境.....	3
1. 自然的環境.....	3
2. 歴史的環境	3
IV. 昭和58年度の調査概要	3
1. 調査区の概要	3
2. 主な遺構の概要	6
①. No.2 トレンチ竪穴住居跡.....	6
②. No.3 トレンチ石組炉.....	6
V. 昭和60年度の調査概要	9
1. 60年度の試掘調査	9
2. 南部側溝埋設箇所の調査	9
VI. 出土遺物の概要.....	10
1. 縄文土器	10
2. 石器・石製品	11
3. 土偶・土製品	11
VII. まとめ.....	11
遺跡・遺構写真	12
遺物写真	20

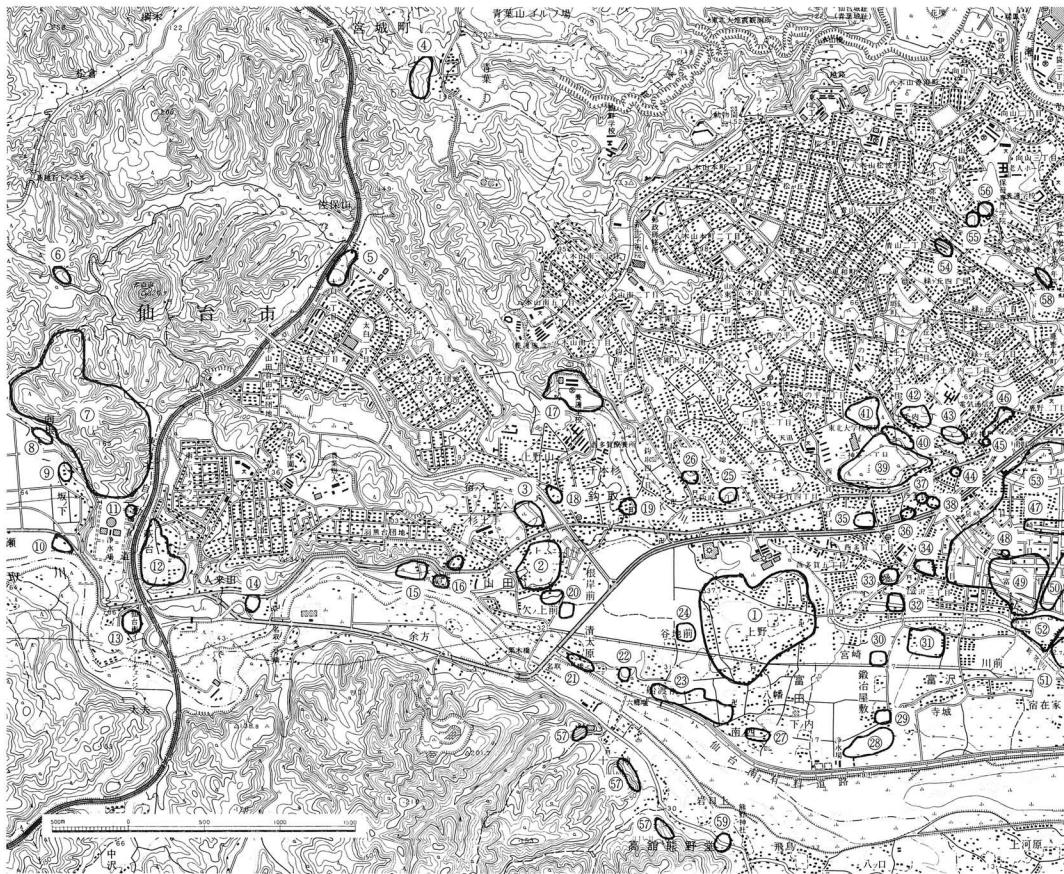
I. 調査要項

1. 遺跡の名称 上野遺跡
2. 遺跡所在地 宮城県仙台市富田字上野地内
3. 調査期間
1次調査 昭和58年11月25日～58年12月27日
2次調査 昭和60年4月16日～60年6月18日
4. 調査面積 約145m² (対象道路総延長640m)
5. 調査主体 仙台市教育委員会
6. 調査担当 仙台市教育委員会社会教育課文化財調査係
1次調査 金森安孝・菅原和夫・佐藤甲二
2次調査 工藤哲司・千葉 仁
7. 調査参加者
1次調査 安達八千代・大場拓俊・小林 充・斎藤慶子・斎藤雅子・茂泉
満・鈴木康弘・高橋とみ子・遠山克喜・長谷部裕二・三浦秀樹・
管野政彦・阿部孝一
2次調査 浅理千賀・伊藤和枝・神尾紀以子・菊池 聰・真中信三・阿部
正子・遠藤いな子・遠藤金蔵・大友 勇・大友利藏・佐藤まさ
子・佐野たみえ・菅原澄枝・菅井忠吉・高橋千年世・中沢正吉
・根深はつえ・三浦フミ江・三浦きよの
8. 調査協力 板橋吾平治・山辰建設株式会社・地権者：大里長七・下山政巳・渡辺 誠
佐藤定子・佐藤喜代二

II. 調査に至る経過

上野遺跡周辺は近年急速に宅地化が進み、遺跡の立地する台地上にも住宅が増え、生活道路の整備が地域の住民から要望されるようになった。そこで仙台市は遺跡にかかる市道のうち、特に沿道に住宅が多い市道十文字線の整備を行なうこととした。道路の整備には雨水管の埋設が伴い、この部分での遺跡破壊が予想されたため、市道路部から昭和58年7月11日付で遺跡の発掘通知が市教育長に提出された。そこで両者協議の上、昭和58年度は工事計画区間のうち南半分の管理設部の事前調査を実施することにし、11月25日から調査に着手し、12月27日に調査を終了した。

工事計画区間の北半分と、昭和58年度に調査し残した南半分の側溝埋設箇所の一部については、一ヶ年間を開けて昭和60年4月16日に調査を再開し、6月18日に終了した。



第1図 上野遺跡と周辺の遺跡(国土地理院「仙台西南部(1/25000)」から)

遺跡番号	遺跡名	所属時期	遺跡番号	遺跡名	所属時期
1	上野遺跡	縄文(中、後)、奈良、平安	31	富沢館跡	奈良、平安、中世
2	山田上ノ台遺跡	旧石器(前、後)、縄文(早、中、後)、平安、江戸	32	堀ノ内遺跡	奈良、平安
3'	北前遺跡	旧石器(前、後)、縄文(早、前、中)、平安、江戸	33	富沢上ノ台遺跡	奈良、平安
4	青葉山遺跡	旧石器	34	富沢清水遺跡	縄文、奈良、平安
5	佐保山東遺跡	縄文、平安	35	原遺跡	古墳、奈良、平安
6	梨野横穴群	縄文、奈良、平安(?)	36	原東遺跡	古墳、奈良、平安
7	茂庭東館	中世(けんとう城)	37	裏町古墳	古墳
8	向根横穴群	古墳	38	裏町東遺跡	古墳
9	坂ノ下遺跡	弥生、古墳、平安	39	三神峯遺跡	旧石器、縄文(早、前、中)
10	中ノ瀬遺跡	縄文、奈良(末)、平安	40	土手内横穴群	奈良、平安(?)
11	人来田A遺跡	縄文(中)、弥生(中)	41	芦ノ口遺跡	平安
12	人来田遺跡	縄文(中)、弥生	42	土手内遺跡	縄文、奈良、平安
13	人来田B遺跡	縄文、古墳、平安	43	土手内窯跡	奈良、平安
14	人来田C遺跡	縄文、古墳、平安	44	金洗沢古墳	古墳
15	羽黒台遺跡	縄文、古墳、奈良、平安	45	砂押古墳	古墳
16	羽黒堂遺跡	縄文、古墳、平安	46	砂押屋敷遺跡	奈良、平安
17	御堂平遺跡	縄文、奈良、平安	47	泉崎浦遺跡	縄文(後)、古墳、奈良、平安
18	上野山遺跡	縄文	48	教塚古墳	古墳
19	町遺跡	縄文、古墳、平安	49	山口遺跡	縄文(中、後)、弥生、古墳、奈良、平安
20	汚田通遺跡	縄文、奈良、平安	50	六反田遺跡	縄文(中、後、晚)、弥生、古墳、奈良、平安
21	清太原西遺跡	縄文(中)、奈良、平安	51	伊古田遺跡	奈良、平安
22	清太原東遺跡	縄文(中)、奈良、平安	52	下ノ内遺跡	縄文、古墳、奈良、平安
23	船波前遺跡	縄文(中、後)、弥生、奈良、平安	53	富沢水田遺跡	弥生、古墳、奈良、平安、中世
24	谷地前遺跡	奈良、平安	54	青山二丁目遺跡	奈良、平安
25	八幡遺跡	古墳、奈良、平安	55	二ツ沢遺跡	縄文
26	後田遺跡	奈良、平安(?)	56	八木山線町遺跡	縄文(中)
27	富田南西遺跡	奈良、平安(?)	57	熊野堂横穴群	古墳、奈良
28	六本松遺跡	奈良、平安	58	二ツ沢横穴群	奈良
29	銀治屋敷A遺跡	奈良、平安	59	岩口上遺跡	古墳、奈良、平安
30	銀治屋敷A遺跡	奈良、平安			

III. 遺跡の立地と環境

1. 自然的環境

上野遺跡は、国鉄仙台駅より南西に約6.2km、長町駅より西に約3.5km離れた仙台市富田字上野地内に所在している。本遺跡の周辺地形は、北側に青葉山丘陵が西から東へ向かってのび、南側には名取川を挟んで高館丘陵が位置している。

本遺跡は、前述の青葉山丘陵と高館丘陵の間に広がる標高40～25mの『名取台地（山田面）』と呼称される河岸段丘の東端部に位置する。この部分は、周囲より更に4～8mほど小高くなっている。段丘礫層を基盤とし、その上に堆積した黄褐色火山灰層によって形成されている。遺跡の面積は約30万m²にも及んでいる。

現在、遺跡範囲内には上野地区の集落や畠が営なまれ、一段低い周辺部は水田地帯となっている。

2. 歴史的環境

仙台市南西部の名取川北岸地域は、本遺跡をはじめ名時代の遺跡が数多く分布している所である。本遺跡は既に大正の頃から遺跡の存在が知られていたが、昭和51年度の発掘調査で縄文時代中期の住居跡などが確認されている。以下は各時代ごとに周辺の遺跡を概観していきたい。

旧石器時代の遺跡は西方に青葉山丘陵から南に張り出した小丘陵先端部に、山田上ノ台遺跡、北前遺跡がある。縄文時代になると北方の青葉山丘陵先端部に三神峯遺跡、東方の富沢地区では名取川、笊川によって形成された自然堤防上に、山口遺跡、下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡が存在する。弥生時代のものとしては、富沢地区で弥生時代水田跡が確認された富沢水田遺跡がある。また本遺跡南方に船渡前遺跡が存在する。古墳時代になると、北方に裏町古墳、三神峯古墳、教塚古墳、また東方の大野田地区で古墳群の存在が知られている。奈良・平安時代のものは、前述富沢地区の自然堤防上に立地する山口遺跡などで、かなりの規模の集落跡が確認されている。また周辺部には、鍛冶屋敷A・B遺跡、八幡西遺跡、山田条里遺構、竹ノ内前遺跡などがある。中世では、東方に戦国期の富沢館跡がある。

IV. 昭和58年度の調査概要

1. 調査区の概要

58年度は、仙台市富田字上野西地内に予定されている市道側溝工事にかかる、市道十文字線の山田・富田～富田・上野中1号線の北側50mと南側290mの工事区間のうち、市道建設によ

る攪乱をうけていない北側50mと南側250mを調査対象とし、本調査前に試掘調査を実施した。ここは、上野遺跡の立地する台地の南西辺にあたる。

本道路は、地元住民の生活道路として機能しており、通行止めとすることができなかったため、調査区の設定、排土には困難を極めた。

試掘調査は、2m×3mを基本とするトレンチをマンホール設定予定地を中心に9個所に設定、実施した。

その結果、No.2 トレンチとNo.3 トレンチからは、大量の縄文土器片が道路の舗装面直下および耕作土から出土したため、トレンチの間で排水管工事によって破壊される部分についてトレンチ（No.10）を設定し、調査を実施した。（第2図）

各トレンチの地表面の標高は最北のNo.8 トレンチで最も高く（33.4m）、No.2 トレンチ（32.5m）まで緩やかに傾斜し、No.1 トレンチ（31.5m）から南に急激に低くなる。基本層位は、トレンチによって変化するが、黒色ないし黒褐色・暗褐色のシルト（1層）、No.2 トレンチ～No.9 トレンチにかけて分布する、土器片や石器、焼土粒を含む黒褐色・極暗褐色のシルトの遺物包含層（2層）、一部にのみ分布する暗褐色シルトの漸移層（3層）、褐色土質シルトのローム地山（4層）からなる。（第3図）

〈No.1 トレンチ〉

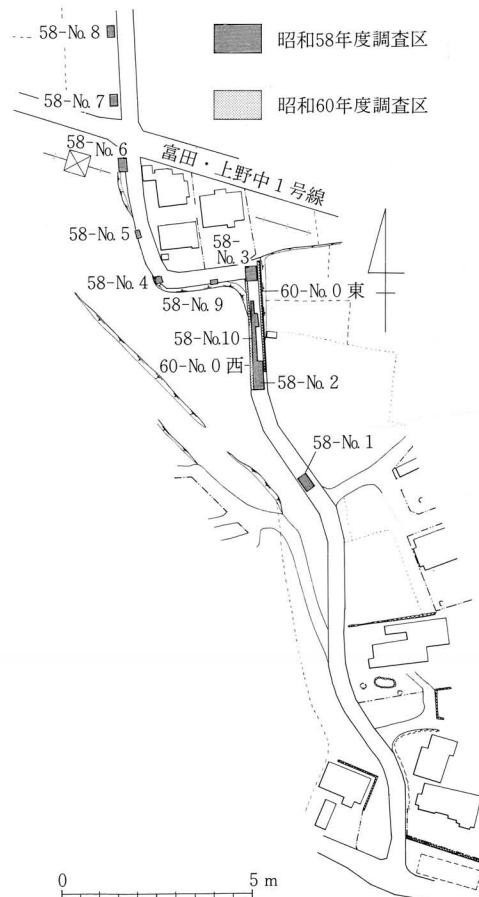
台地の南西端に位置する。道路上に3m×4mのトレンチを設定したが、水道管工事による掘削で約半分が攪乱をうけており、ピット3個を検出しただけである。

〈No.2 トレンチ〉

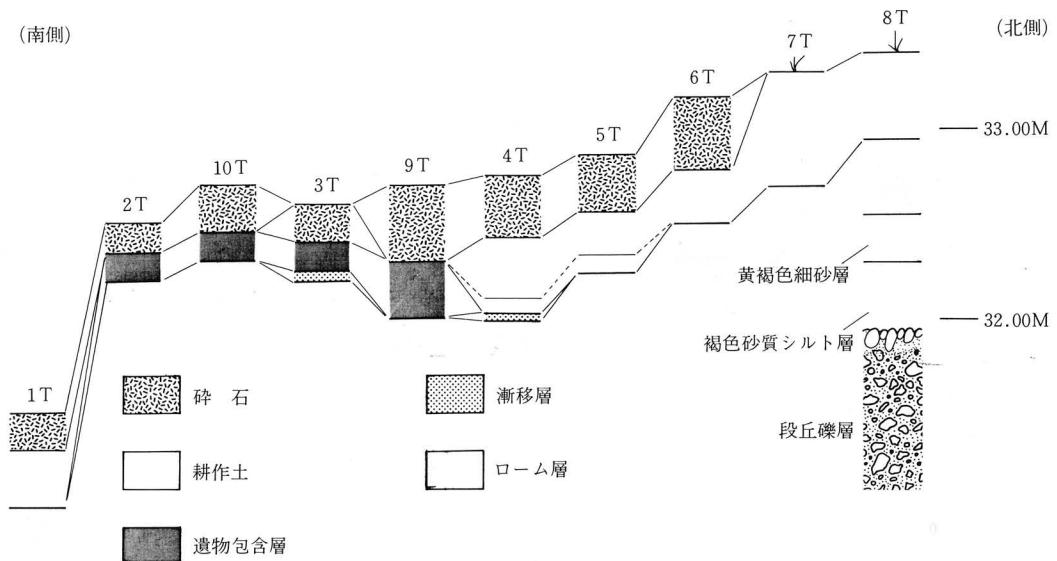
道路上に3m×10mのトレンチを設定した。トレンチの北半部からは、複式炉をもつ竪穴住居跡を検出し、一括土器や石器を数多く出土した。

〈No.3 トレンチ〉

道路上に3m×4mのトレンチを設定した。40cm程の耕作土の中からは多量の土器を出土し、



第2図 十文字線南部トレンチ配置図



第3図 上野遺跡、十文字線トレンチ土層柱状図

石組炉、土壙を検出した。

〈No.4 トレンチ〉

道路上に $1.5\text{ m} \times 2\text{ m}$ のトレンチを設定した。耕作土中から破片を少量出土しただけで、遺構などは検出しなかった。トレンチの南側に傾斜する。

〈No.5 トレンチ〉

道路上に $2\text{ m} \times 2\text{ m}$ のトレンチを設定したが、東側半分は水道管による攪乱であった。トレンチ内で西側に傾斜する。耕作土から若干の遺物を出土したが、遺構は検出しなかった。

〈No.6 トレンチ〉

道路の西側に $2\text{ m} \times 4\text{ m}$ のトレンチを設定した。若干の遺物を出土したが、遺構は検出しなかった。

〈No.7 トレンチ〉

道路西側の畑に $2\text{ m} \times 3\text{ m}$ のトレンチを設定した。耕作土直下のローム層上面で数個のピットを検出した。遺物は1点しか出土しなかった。

〈No.8 トレンチ〉

No.7 トレンチと同様に畑の中に $2\text{ m} \times 3\text{ m}$ のトレンチを設定した。遺構・遺物ともに検出しなかったので、地山土のローム層を掘り下げて、約 1 m 下の礫層まで確認した。

〈No.9 トレンチ〉

No.3 トレンチと No.4 トレンチの間で遺物包含層の存在が変化するので、その中間に $1\text{ m} \times 2\text{ m}$ のトレンチを設定した。その結果、土壙を1基検出し、包含層はさらに西に続くことが確認で

きた。若干の遺物を出土した。

〈No.10トレンチ〉

No.2 トレンチの北側、No.3 トレンチの南側、雨水管工事で破壊される部分17mと拡張が可能な約5m²について調査した。その結果、包含層中から大量の土器や石器を出土した。

2. 主な遺構の概要

①. No.1 トレンチ竪穴住居跡

〈平面形・規模〉東西2.6m以上、南北5.5mを計り、全体形は不明である。住居跡の中央を50～75cmの幅で水道管の攪乱が切っている。

〈堆積土〉道路工事による攪乱で最下層の黒色シルト層だけを検出した。骨片や焼土、土器、石器を多量に含む。

〈壁〉攪乱のため確認できなかった。

〈床面〉床面には貼り床はなく、ほぼ平坦で比較的堅くなっている。床面上の一部には薄く炭化物層の見られる個所もあった。

〈柱穴〉ピットは床面上より、12個検出された。この中でも柱穴と考えられるものは、P.1, P.8, P.9, などであるが、住居跡の全体形が不明であり、断定できない。

〈周溝〉北側と西側で一部を確認した。幅は15～30cm、床面からの深さは3～8cm前後である。

〈炉〉炉は住居跡中央部に位置し長軸2.2m以上、短軸1.1mの複式炉である。炉の中央部は強く火熱を受け、赤褐色に焼けており、その周辺は極暗赤褐色に焼けている。炉の中心よりやや南側で浅鉢1個が出土している。

②. No.3 トレンチ石組炉

No.3 トレンチは、住民の通行路の確保による制約から、3×3m大のトレンチしか設定できなかったために、石組炉とピット5個を検出したが、住居跡と認定することができなかった。

〈平面形・規模〉東西1.3m、南北1.0mで丸みを帯びた四角形である。炉の北側と西側が攪乱により破壊されている。埋設された土器もなく、火熱を受けた痕跡も明瞭には確認できなかった。



写真1 2T南西角遺物出土状況(西より)



写真3 2T完掘全景(北より)



写真4 10T遺物出土状況(北より)



写真5 3T全景 石組炉検出状況(西より)



写真2 2T完掘状況(南より)

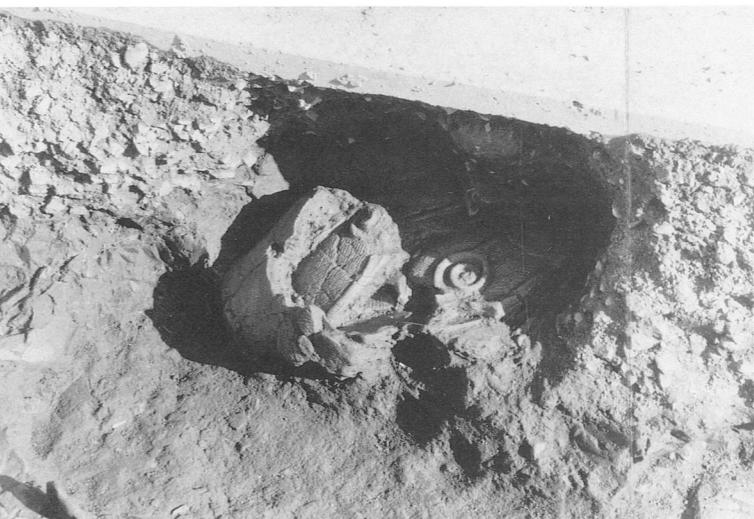
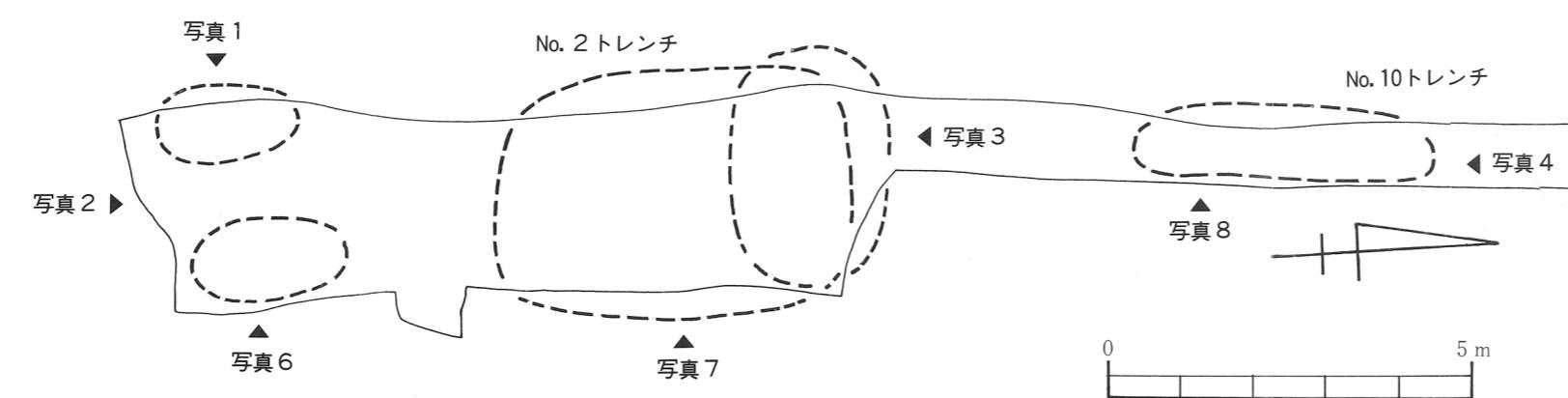


写真6 2T南東角 遺物出土状況(東より)



写真7 住居跡完掘状況(東より)

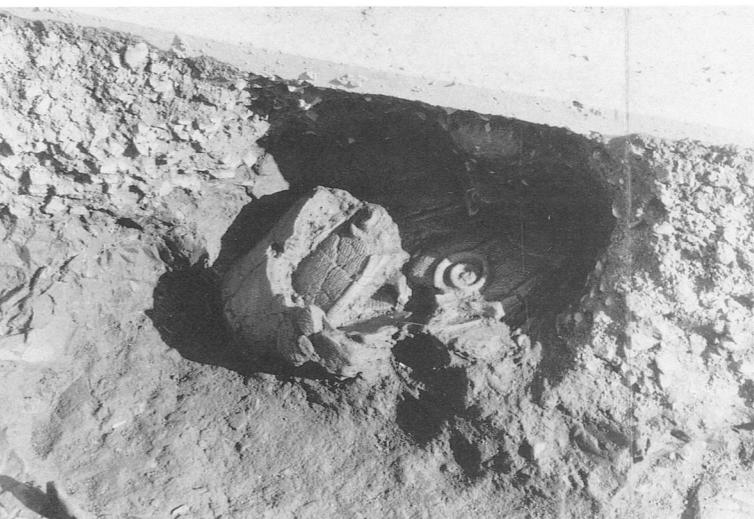


写真8 深鉢出土状況(南より)



写真9 10T遺物出土状況(東より)

V. 昭和60年度の調査概要

1. 60年度の試掘調査

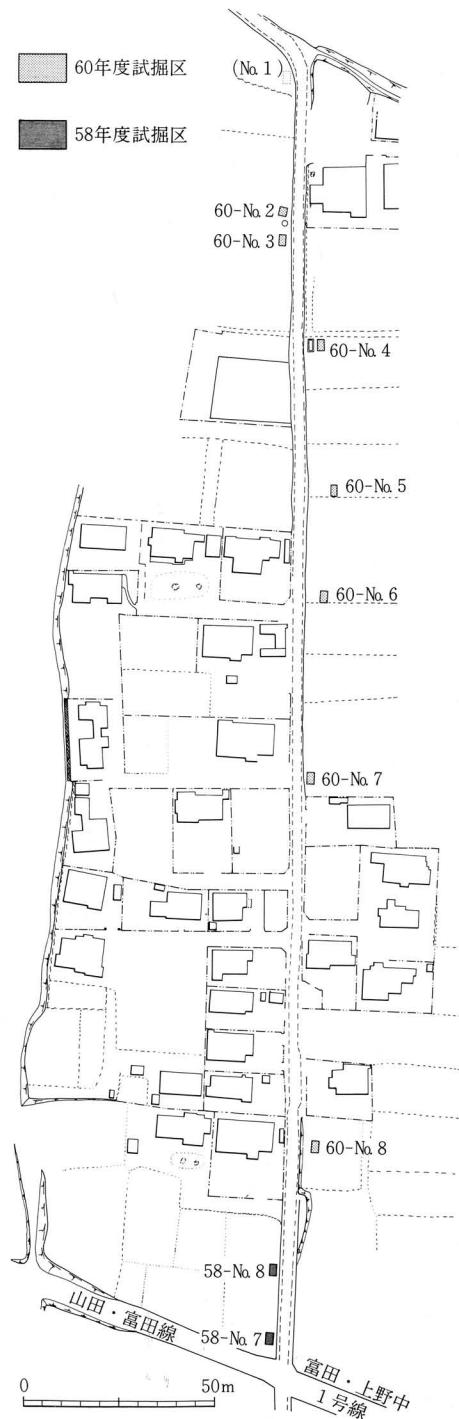
60年度は、市道十文字線の山田・富田・上野中1号線以北の約350mのうち、北側300mについて調査対象とし、本調査の前に試掘調査を実施した。ここは、上野遺跡の立地する大地の北西辺にあたる。試掘調査は、道路脇の畠地に2m×3mを基本とするトレンチを8箇所に設定し、このうちNo.1トレンチを除く7箇所の調査を行なった。（第5図）

各トレンチとも暗褐色の耕作土の直下がローム層となっていた。ローム層までの深さはNo.2～3トレンチで20～30cm、No.4～8トレンチで50～70cmを計る。ローム面で遺構は検出されなかった。出土遺物は、No.4トレンチからフレイク1点、No.5トレンチから土師器片2点（古式土師器 壺口縁部片1点を含む）、No.7トレンチから縄文土器片1点、No.8トレンチから縄文土器片2点が出土した。この遺物出土量は、多量の遺物が表面採集されている南部及び東部の畠地と比べると、極めて少ない量である。

58年度の試掘調査（No.7・8トレンチ）と今回の試掘調査の結果から、上野遺跡の立地する台地の北西部は、遺構の分布が極めて稀薄であると考えられるようになった。このため、今年度調査を予定していた市道十文字線北部の本調査は実施しないこととした。

2. 南部側溝埋設箇所の調査

南部側溝埋設箇所は、昭和58年度に調査した



第5図 十文字線北部北区トレンチ配置図

No.10トレンチの東西両側にあたり、「L」字溝埋設に伴う掘削に際して、立会い調査を実施した。掘削溝はNo.0 トレンチとした。

東側掘削溝（No.0 トレンチ東）は、第6図のように幅1m・長さ25mに渡って調査した。道路面からローム面までの深さは南端で40cm・北端で90cmを計り、北側での攪乱が著しい。ローム面でのレベル差は北側が20cm程低い。ローム面では、トレンチ南半部で焼土が2箇所、中央部付近でピットが14基検出されている。焼土の周辺と、焼土と焼土の間の攪乱が浅い部分のローム層直上からは縄文土器片が多量に出土した。ピット検出部の表土中からも縄文土器が出土するが、その割合は北に寄るに従って少なくなる。

北側の焼土は東西75cm以上・南北70cmを計り、西寄りの中央部が半径45cmで強く焼け縮まっている。南側の焼土は東西35cm以上・南北120cm以上を計る。

西側掘削溝（No.0 トレンチ西）は、東側掘削溝とほぼ平行して深さ30cmまで掘削した。掘削はローム面まで達しなかったが、東側掘削溝で遺物が多量に出土した部分に対応した箇所では、やはり多くの遺物が出土した。

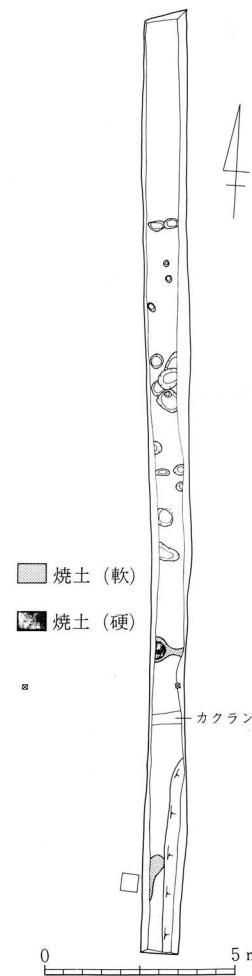
VII. 出土遺物の概要

昭和58年度と昭和60年度の出土遺物を合せると、中型のコンテナにして約50箱に達し、調査面積（0・2・3・10トレンチ合計約70m²がそのほとんど）の割に出土遺物量が多い。出土遺物には、土師器・縄文土器・石器類・石製品・土製品等があるが、そのほとんどは縄文土器である。

1. 縄文土器

現在整理途中で、全ての破片の観察を終えていないので、何型式の土器が含まれているか詳細は明らかになっていないが、観察を終えた縄文土器のほとんどは縄文時代中期の大木8a式（写真-34）と8b式（写真-34・35）のものである。前2型式の他には大木7a式に比定される破片も数点出土している。（写真-34）大木8a・8b式土器の器種には深鉢と浅鉢があり、それぞれに大形のものと中・小形のものがあるようである。

上野遺跡では、今回の調査で出土した大木7a・8a・8b式土器以外には、これまでの調



第6図 No.0 東トレンチ
遺構配置図

査で大木9式土器と大木10式土器も出土している。（金森・主浜、仙台市教育委員会、1976）

2. 石器・石製品

石器には、石鏃・ポイント・石匙・凹石のほか不定形の石器や、多量のフレイク・石器原材の接合資料も出土している。（写真-36）

石製品には石皿片と有孔石製品がある。有孔石製品は歪んだ長さ4cmほどの正八面体状の白色の石に、一方から円錐状の孔が開けられている。これについては装飾品と考えられる。（写真-36）

3. 土偶・土製品

土偶は頭部片1点、胴部上半片1点、胴部下半片1点、及び脚部片と考えられるものの破片が3点出土している。（写真-35・36）このうち頭部片と胴部上半片にはそれぞれ頭髪部と腕部に一対の貫通孔が上下方向に開けられている。脚部片と考えられる破片のうち1点は端部がラッパ状に開き内部が中空で、表面全体に細い沈線で渦巻き文が描かれていることから、あるいは土偶とは別の装飾品の可能性もある。（写真-35）

土偶以外の土製品としては、土製円盤が数点とY字状土製品1点、及び用途不明の板状土製品が出土している。（写真-35）Y字状土製品は、縦5cm・横5.3cmで、左右の枝部の下が脹らんでおり、中央に斜位の平行沈線が引かれている。

VII. まとめ

1. 上野遺跡は「名取台地」の河岸段丘上に立地し、今回のはその西端辺の調査を行なった。
2. 市道十文字線に係わる部分については、山田・富田一富田・上野中1号線以北の台地上とNo.1トレーンチ以南の段丘斜面には遺構が検出されなかった。
3. 台地西部では南部に遺構・遺物が集中し、遺物包含層・竪穴住居跡・石組炉・土壙・Pit等が検出された。
4. 出土遺物には、縄文土器・土師器・石器・石製品・土製品などがあり、そのほとんどは縄文土器を主とする縄文時代のものである。
5. 遺物包含層・竪穴住居跡・石組炉・土壙等から出土する土器は、縄文時代中期の大木8a式土器と大木8b式土器がほとんどで、希に大木7a式土器が混じっている。

写真10 58-No.1トレンチ
(東より)



写真11 58-No.2トレンチ南半
遺構検出状況
(東より)



写真12 58-No.2トレンチ北半
遺構検出状況
(東より)





写真13 58—No. 2トレンチ
遺物出土状況
(東より)



写真14 58—No. 2トレンチ
遺物出土状況
(西より)



写真15 58—No. 2トレンチ
住居跡炉内遺物出
土状況 (南より)

写真16 58-No.4トレンチ
(南より)



写真17 58-No.5トレンチ
(南より)



写真18 58-No.6トレンチ





写真19 58-No. 7トレンチ
(東より)

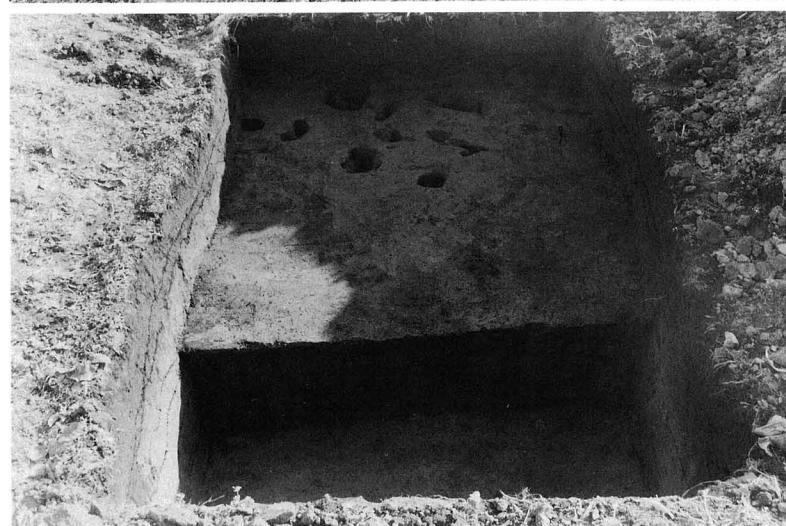


写真20 58-No. 8トレンチ
(北より)



写真21 58-No. 9トレンチ
(北より)

写真22 58—No. 10 トレンチ
遺物集中区北側
(東より)



写真23 58—No. 10 トレンチ
遺物集中区南側
(東より)



写真24 58—No. 10 トレンチ
埋設土器
(東より)





写真25 60-No. 2トレンチ
(西より)



写真26 60-No. 4トレンチ
(西より)



写真27 60-No. 5トレンチ
(西より)

写真28 60-No. 6トレンチ
(南東より)



写真29 60-No. 7トレンチ
(南西より)

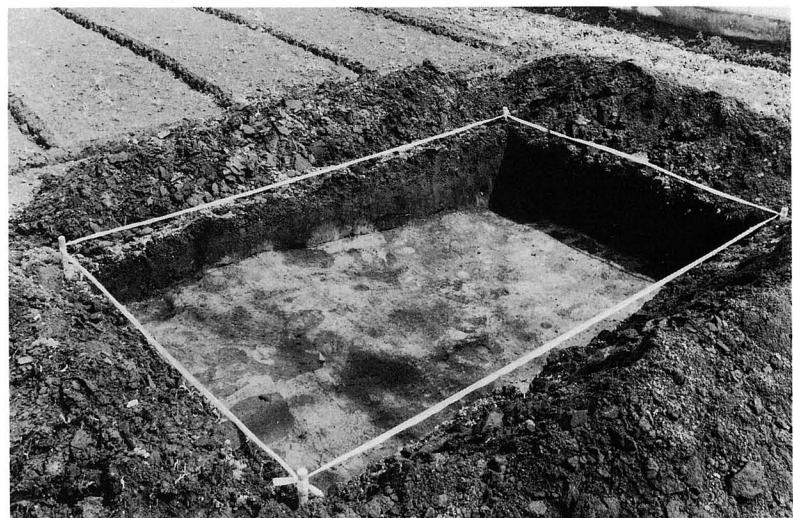


写真30 60-No. 8トレンチ
(南西より)

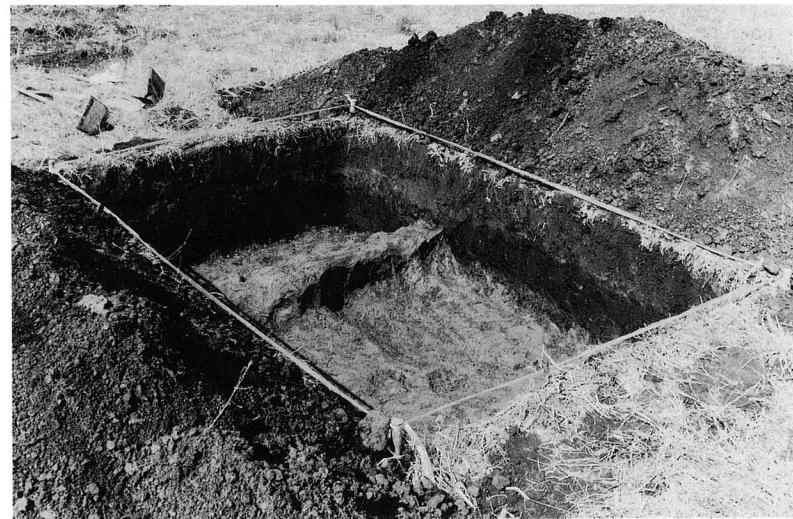




写真32 60-No.0トレンチ東ピット群（南より）



写真31 60-No.0トレンチ東（南より）



写真33 60-No.0トレンチ東（北より）



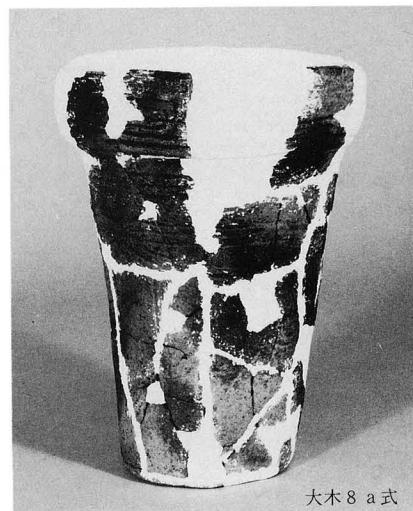
大木7 a式



大木8 a式



大木8 a式



大木8 a式



大木8 b式



大木8 b式

写真34 縄文土器

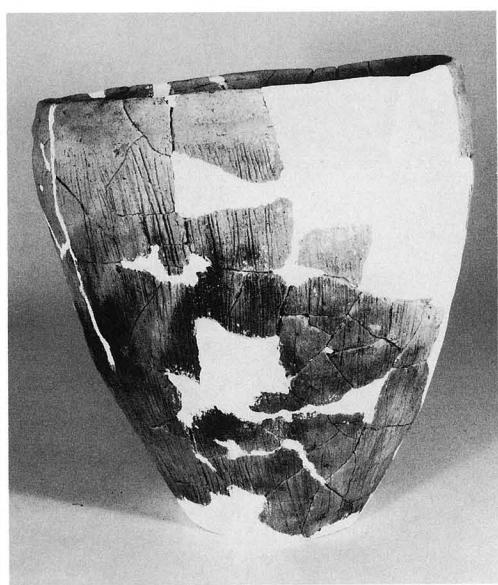
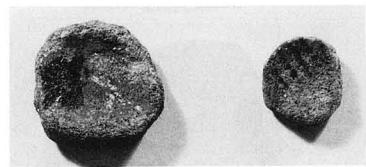
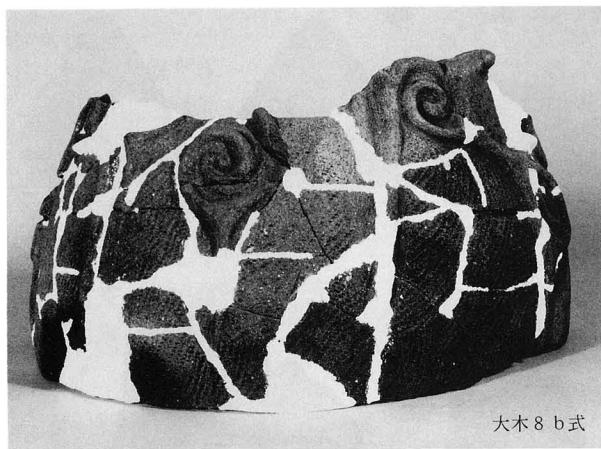


写真35 繩文土器、土偶、土製品

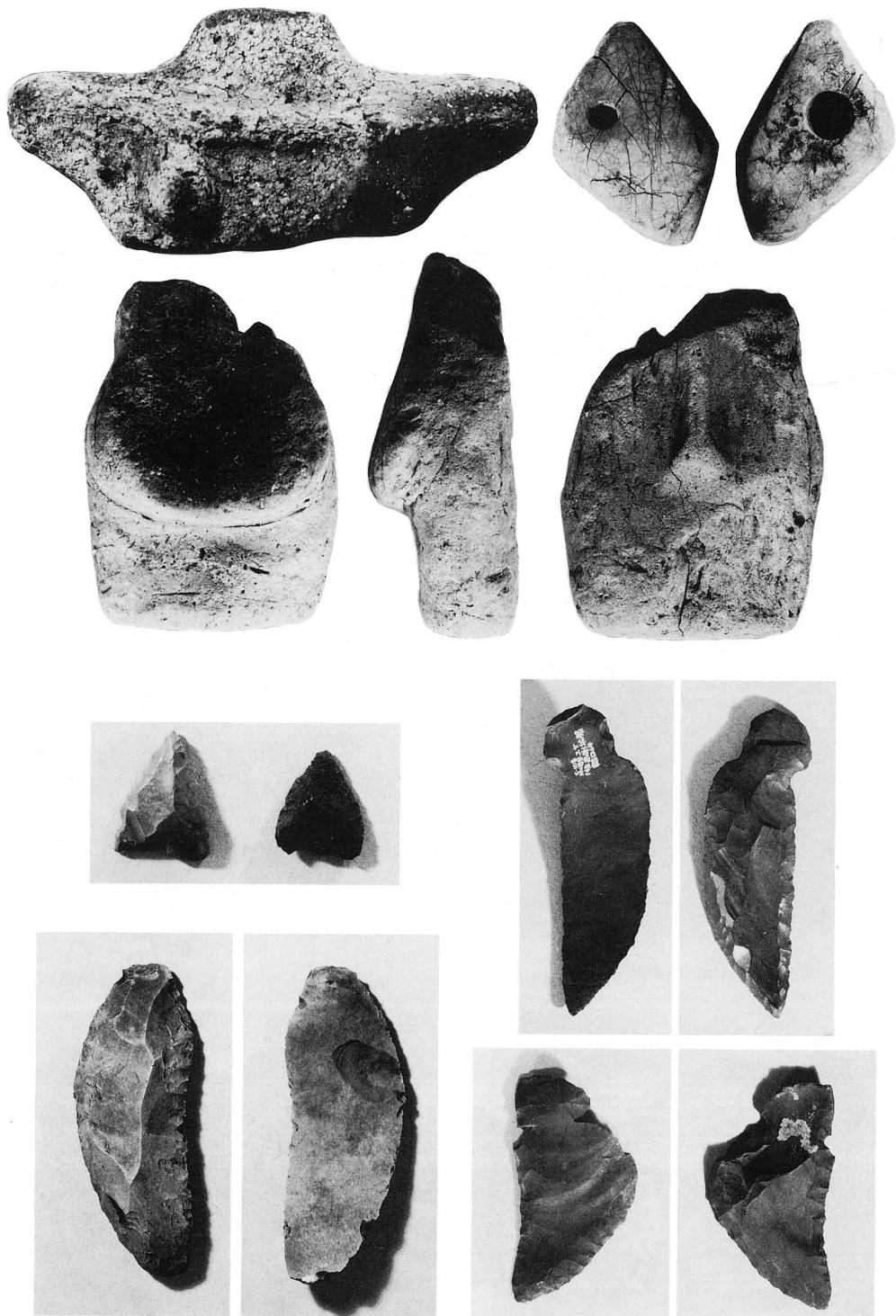


写真36 土偶、石器、石製品

職 員 錄

社会教育課		文化財調査係			
課長	阿部 達	係長	佐藤 隆	主事	渡部弘美
主幹	早坂春一	主事	結城 慎一	教諭	渡辺 誠
		教諭	菅原 和夫	主事	主浜光朗
文化財管理係		主事	木村 浩二	〃	斎野裕彦
		〃	篠原 信彦	〃	長島栄一
係長	佐藤政美	教諭	小野寺和幸	〃	及川 格
主事	岩沢克輔	〃	佐藤美智雄	教諭	千葉 仁
〃	山口 宏	主事	佐藤 洋	〃	松本清一
		〃	金森 安孝	主事	高橋 泰
		〃	佐藤 甲二	〃	鈴木善弘
		〃	吉岡 恭平	派遣職員	高橋勝也
		〃	工藤 哲司		

仙台市文化財調査報告書刊行目録

- 第1集 天然記念物靈屋下セコイア化石林調査報告書（昭和39年4月）
 第2集 仙台城（昭和42年3月）
 第3集 仙台市燕沢善応寺横沢穴古墳群調査報告書（昭和43年3月）
 第4集 史跡陸奥国分尼寺跡環境整備並びに調査報告書（昭和44年3月）
 第5集 仙台市南小泉法領塚古墳調査報告書（昭和47年8月）
 第6集 仙台市荒巻五本松塚跡発掘調査報告書（昭和48年10月）
 第7集 仙台市富沢裏町古墳発掘調査報告書（昭和49年3月）
 第8集 仙台市向山愛宕山横穴群発掘調査報告書（昭和49年5月）
 第9集 仙台市根岸町宗禪寺横穴群発掘調査報告書（昭和51年3月）
 第10集 仙台市中田町安久東遺跡発掘調査概報（昭和51年3月）
 第11集 史跡遠見塚古墳環境整備予備調査概報（昭和51年3月）
 第12集 史跡遠見塚古墳環境整備第二次予備調査概報（昭和52年3月）
 第13集 南小泉遺跡一範囲確認調査報告書一（昭和53年3月）
 第14集 粟遺跡発掘調査報告書（昭和54年3月）
 第15集 史跡遠見塚古墳昭和53年度環境整備予備調査概報（昭和54年3月）
 第16集 六反田遺跡発掘調査（第2・3次）のあらまし（昭和54年3月）
 第17集 北屋敷遺跡（昭和54年3月）
 第18集 枇江遺跡発掘調査報告書（昭和55年3月）
 第19集 仙台市地下鉄関係分布調査報告書（昭和55年3月）
 第20集 史跡遠見塚古墳昭和54年度環境整備予備調査概報（昭和55年3月）
 第21集 仙台市開発関係遺跡調査報告1（昭和55年3月）
 第22集 経ヶ峯（昭和55年3月）
 第23集 年報1（昭和55年3月）
 第24集 今泉城跡発掘調査報告書（昭和55年8月）
 第25集 三神峯遺跡発掘調査報告書（昭和55年12月）
 第26集 史跡遠見塚古墳昭和55年度環境整備予備調査概報（昭和56年3月）
 第27集 史跡陸奥国分寺昭和55年度発掘調査概報（昭和56年3月）
 第28集 年報2（昭和56年3月）
 第29集 郡山遺跡I—昭和55年度発掘調査概報—（昭和56年3月）
 第30集 山田上ノ台遺跡発掘調査概報（昭和56年3月）
 第31集 仙台市開発関係遺跡調査報告2（昭和56年3月）
 第32集 鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和56年3月）
 第33集 山口遺跡発掘調査報告書（昭和56年3月）
 第34集 六反田遺跡発掘調査報告書（昭和56年12月）

- 第35集 南小泉遺跡—都市計画街路建設工事関係第1次調査報告（昭和57年3月）
第36集 北前遺跡発掘調査報告書（昭和57年3月）
第37集 仙台平野の遺跡群Ⅰ—昭和56年度発掘調査報告書一（昭和57年3月）
第38集 郡山遺跡Ⅱ—昭和56年度発掘調査概報一（昭和57年3月）
第39集 燕沢遺跡発掘調査報告書（昭和57年3月）
第40集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ（昭和57年3月）
第41集 年報3（昭和57年3月）
第42集 郡山遺跡一宅地造成に伴う緊急発掘調査一（昭和57年3月）
第43集 栗遺跡（昭和57年8月）
第44集 鴻ノ巣遺跡発掘調査報告書（昭和57年12月）
第45集 茂庭—茂庭住宅団地造成工事地内遺跡発掘調査報告書一（昭和58年3月）
第46集 郡山遺跡Ⅲ—昭和57年度発掘調査概要一（昭和58年3月）
第47集 仙台平野の遺跡群Ⅱ—昭和57年度発掘調査報告書一（昭和58年3月）
第48集 史跡遠見塚古墳昭和57年度環境整備予備調査概報（昭和58年3月）
第49集 仙台市文化財分布調査報告Ⅰ（昭和58年3月）
第50集 岩切畠中遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
第51集 仙台市文化財分布地図（昭和58年3月）
第52集 南小泉遺跡—都市計画街路建設工事関係第2次調査報告（昭和58年3月）
第53集 中田畠中遺跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
第54集 神明社窯跡発掘調査報告書（昭和58年3月）
第55集 南小泉遺跡—青葉女子学園移転新営工事地内調査報告（昭和58年3月）
第56集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅱ（昭和58年3月）
第57集 年報4（昭和58年3月）
第58集 今泉城跡（昭和58年3月）
第59集 下ノ内浦遺跡（昭和58年3月）
第60集 南小泉遺跡—倉庫建築に伴う緊急発掘調査報告書一（昭和58年3月）
第61集 山口遺跡Ⅱ—仙台市体育館建設予定地一（昭和59年2月）
第62集 燕沢遺跡（昭和59年3月）
第63集 史跡陸奥国分寺跡昭和58年度発掘調査概報（昭和59年3月）
第64集 郡山遺跡Ⅳ—昭和58年度発掘調査概要一（昭和59年3月）
第65集 仙台平野の遺跡群Ⅲ—昭和58年度発掘調査報告書一（昭和59年3月）
第66集 年報5（昭和59年3月）
第67集 富沢水田遺跡—第1冊—泉崎前地区（昭和59年3月）
第68集 南小泉遺跡—都市計画街路建設工事関係第3次調査報告（昭和59年3月）
第69集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅲ（昭和59年3月）
第70集 戸ノ内遺跡発掘調査報告書（昭和59年3月）
第71集 後河原遺跡（昭和59年3月）
第72集 六反田遺跡Ⅱ（昭和59年3月）
第73集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅱ（昭和59年3月）
第74集 郡山遺跡Ⅴ—昭和59年度発掘調査概報一（昭和60年3月）
第75集 仙台平野の遺跡群Ⅳ（昭和60年3月）
第76集 仙台城三ノ丸跡発掘調査報告書（昭和60年3月）
第77集 山田上ノ台遺跡—昭和59年度発掘調査報告書一（昭和60年3月）
第78集 中田畠中遺跡—第2次発掘調査報告書一（昭和60年3月）
第79集 欠ノ上Ⅰ遺跡発掘調査報告書（昭和60年3月）
第80集 南小泉遺跡—第12次発掘調査報告書一（昭和60年3月）
第81集 南小泉遺跡—第13次発掘調査報告書一（昭和60年3月）
第82集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅳ（昭和60年3月）
第83集 年報6（昭和60年3月）
第84集 仙台市文化財分布調査報告書Ⅲ（昭和60年3月）
第85集 宮城県仙台市愛宕山装飾横穴古墳発掘調査報告書（昭和60年8月）
第86集 郡山遺跡Ⅶ（昭和61年3月）
第87集 仙台平野の遺跡群Ⅴ—昭和60年度発掘調査報告書一（昭和61年3月）
第88集 上野遺跡発掘調査報告書
第89集 仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅴ
第90集 若林城跡—平安時代の集落跡
第91集 東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書
第92集 五城中北窯跡発掘調査報告書
第93集 年報7（昭和61年3月）

仙台市文化財調査報告書第88集

昭和60年度

上野遺跡市道十文字線関係調査略報

昭和61年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市国分町3-7-1
仙台市教育委員会社会教育課

印刷 株式会社 東北プリント
仙台市立町24-24 TEL263-1166

